

令和6年度あしたのまち・くらじづくり活動賞 主催者賞受賞

## 児童養護施設とのふるさとづくり

東京都世田谷区 NPO法人東京里山開拓団

現代都市社会のひずみのなかで荒れたままとなっている山林と誰も住まなくなった空き家。そして虐待や貧困などで親と暮らせない児童養護施設の子どもたち。そんな両者をつなぐことができれば環境保全と児童福祉を一石二鳥で進められるのでは――

私たちNPO法人東京里山開拓団は、そう考えて2009年に東京で生まれた、会員30名ほどのボランティア団体です。都内5つの児童養護施設と連携し、活動は500回以上、参加者は2000人以上となりました。

目指しているのは、児童養護施設の子どもたちとともに、ボランティア&開拓者精神を發揮して、社会に埋もれている荒れた山林や空き家などの資源を活用し、ふるさとを自ら創り出して、同時に様々な社会課題さえ楽し

みながら克服して真に心豊かな社会を実現するところにあります。

児童養護施設の子どもたちの活動を開始したのは2012年。東京都八王子市の荒れた山林1.5haを伐り拓いて、道や広場から、ブランコ、アスレチック、雨水タンク、トイレ、石かまど、ツリーハウスまで、里山の恵みを生かし自ら作り上げてきました。また、ミゾゴイという絶滅危惧種の鳥をはじめ、たくさん生き物の観察できる豊かな里山として保全されています。



児童養護施設との里山開拓＝ツリーハウスづくり  
八王子市郊外の荒れた山林に伐り拓いた広場にてツリーハウスづくり。伐採した木を生かしてはしごをつくらせて取付中

ところが、2020年にコロナ禍がはじまり、児童養護施設との合同活動が実施できなくなってしまうと。考え抜いた末に、私たち抜きの児童養護施設だけで里山ライフを

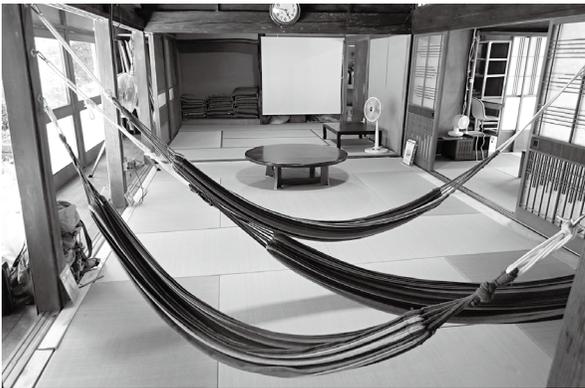




児童養護施設との里山開拓=小屋づくり  
里山での自由時間に小学校低学年の子どもたちが自分たちの力で作った掘っ立て小屋。大人が教えなくても、子どもたちが自ら開拓者精神を発揮することの証明



児童養護施設との里山開拓=里山運動会  
みんなで定期的に通い続けて大地を踏みしめることで里山の広場や山道が維持される。楽しみながら児童福祉と里山保全の一石二鳥を目指す



さとごろりん美山大広間  
2023年に半年かけてゴミ屋敷となっていた築300年の古民家をみんなでDIY再生。縁側のある大広間には30人以上入ることが可能。ハンモックや里山文庫、囲炉裏、薪ストーブも完備

実践できる場をつくろうと思いい立ちました。

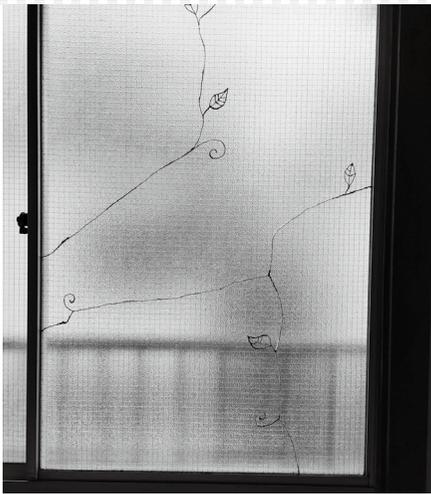
そこで、2021年から空き家DIY改修の経験を重ね、2023年には八王子市郊外の里山のふもとにふるさとの家「さとごろりん美山」をオープンさせました。ゴミ屋敷となっていた築300年の古民家を無償で借り受けて、児童養護施設の子どもたちとともにDIY改修したのです。ここは高齢化の進む過疎集落ですが、里山と小川に囲まれた豊かな自然環境があります。家には縁側、大広間、囲炉裏、薪ストーブ、コンポストトイレ、雨水タンク、バーベキュー場などもあり、みなで本物の里山ライフが実践できます。最近

では児童養護施設の休暇滞在に加えて、施設不対応の児童の緊急受け入れ先としての活用も拡がっています。

さらに2024年、都心にあふれる空き家にも着目し、共感いただける家主から現状のまま3〜5年間無償で借り受けてDIY改修した自立応援の家「まちごろりん世田谷／豊島」を同時開設しました。ここには児童養護施設を退所したばかりの若者7名が入居でき、家賃無料提供、積立促進、生活応援、就職あっせん、ふるさとの家提供などの総合的な自立応援を行っています。入居者は退去時まで自立に必要な経済力や生活力、つなが

り、精神力などを身に付けて、自ら羽ばたいて飛び立つのです。

参加する子どもたちは、一緒に創り上げてきたふるさとのことを「自由な世界」「自分の家みたい」「一生いられる」とまで言います。これを単なる子どもらしい感想と受け取ってはいけません。児童養護施設に入る子どもたちの多くは、親元においては虐待などでその幼い命に危険が及ぶと児童相談所や家庭裁判所が判断するような極めて深刻な状況を経験しています。今も心に大きなトラウマや障害を抱えている子どもたちもいます。そんな子どもたちが口をそろえてここまで言うのです。



まちごろりん豊島窓のひび改修  
窓のひび割れは草木模様に見立てて金継補修。  
もちろんDIY

私たちが特に工夫しているのはボランティアならではの運営面です。行政は縦割りを乗り越える意志、専門家は対等な関係で一緒に試行錯誤し続ける意志、業者はお金にならなくてもやり続ける意志に欠けるところがありますが、それはボランティアなら乗り越えられるのではと考えてきました。私たちの活動運営では、プライスレスなふるさとづくりを税金ゼロ、すなわち民間のボランティアと寄付で成り立たせ、最小コストによる最大効果の実現を追求しています。大人が子どもに教えようとするのではなく一緒に試行錯誤する進め方を心がけています。また、縦割りを超えた試みとして、環境大臣と厚生労働省のそれぞれから表彰もいただきました。

よく勘違いされるのですが、大人たちがかわいそうな子どもたちのために居場所を提供



まちごろりん豊島壁塗装  
共感いただいた不動産会社が再開するまでの古アパートを3年間無料提供。壁塗装をはじめほとんど自らDIY改修して、家賃無料などの自立応援を民間の力で実現

してあげようとしているわけではありません。むしろその逆で、荒れた山林や空き家といった社会課題を生み出してきたのは、汚い、怖い、危険、お金にならないと長年目を背けてきた大人たちの方です。開拓者精神を發揮しながら喜んで通い続ける子どもたちこそがそんな社会課題克服の原動力となり、大人たちも一緒になって取り組んでいるのです。

いま現代都市社会のひずみは、一番弱いところに巢食いさらに周辺に大きく拡がろうとしています。そこには応急処置や一時支援として莫大な税金が投入されてきましたが、根本的な解決に至る道が見えない状況にあります。



まちごろりん豊島ハンモック  
改修したまちごろりん豊島の部屋にはハンモックを設置。施設を退所したばかりの専門学校生が入居中

私たちは、みんなが「一開拓者」となっていくところ、根拠的な解決策があるのではないかと考えています。現代都市社会のひずみをよく観察し、埋もれていた資源のなかに価値とチャンスを見出す。仲間と協力しながら自然の恵みを生かす。失敗を恐れずに自ら試行錯誤する。仲間との思い出とともにふるさとを自ら創り上げる。様々な社会課題さえ楽しみを見出しながら克服する。そんな開拓者精神の發揮こそが真に心豊かな社会を生み出す原動力になるはずと考えて、これからも活動を続けていきます。

(NPO法人東京里山開拓団代表 堀崎茂)